

愛ちゃん と 希望くん



やわたはま

社協だより

71

平成30年1月1日

《発行》社会福祉法人 八幡浜市社会福祉協議会 八幡浜市松柏乙1101番地

八幡浜市保健福祉総合センター2階 TEL 23-2940 FAX 23-0506

ホームページは [八幡浜市社協](#) まで



健康クラブ「寿班」
外出行事で
五十崎「凧博物館」へ



琴平さくら会
「笑いヨガ」

謹賀新年



八幡浜市社会福祉協議会

会長 清家 俊蔵



新年、明けましておめでとうございます。地域住民の皆さまにおかれましては、新春を晴れやかな気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、社会福祉協議会の事業推進につきまして、多大なるご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

昨年開催されました「愛顔つなぐえひめ大会（第17回全国障がい者スポーツ大会）」では、一選手として、そしてチーム一丸となつて戦われた障がいのある方を、市民も一丸となり応援する様を拝見し、私共の目指す「誰もが安心して暮らせる八幡浜市」にまた一歩近づいた所感でありました。

引き続き、一つひとつの出会いを大切にしながら、皆さまと共に邁進してまいります所存です。本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

第17回全国障がい者スポーツ大会 2017 愛顔つなぐ えひめ大会 水泳競技 櫻田 開 選手

「挑戦していききたい！」

平成29年10月28日〜30日に、愛媛県で開催された「愛顔つなぐ えひめ大会」で水泳競技に出場した櫻田開さん(18歳)とお母さんにインタビューをしました。福井の大会を終えたばかりでお疲れのところ、快く受けてくださいました。開さんは、知的障がい者少年男子区分の25m自由形、50m自由形、200mフリーリレーに出場。50m自由形で銅メダル、200mリレーでは銀メダルを獲得しました。水泳を通して得た経験や今後の目標などの話を伺いました。なお、開さんの言葉は、そのまま掲載しています。



えひめ大会200mフリーリレーチーム。上右から櫻田かおりさん(母)、開さん

水泳を始めたきっかけを教えてください。

母 私が水泳の指導のパートをしていた関係で1歳からリ・ステーションのベビークラスに入り、4歳から八幡浜市民スポーツセンターで泳いでいました。帝京第五高校の入学時に、MESSA(健常者の競泳チーム)に入りました。

開さん 初めて愛媛県障がい者スポーツ大会に出場したのは、14歳の時でした。2回目の愛媛県の大会に出場した時にすごいことがあって、金メダルを獲った内の1つが大会新記録だったんです。3回目出場した時も2種目で大会新記録が獲れて、スタンドがざわめいて、自分もビックリしました。

えひめ大会はどうでしたか？

開さん 泳いでいる時は、必死でよく分かります。勝ちたいは勝ちたいけど、ベストタイムを出すことや大きい大会に出るための標準記録を

出したいと思って泳いでいます。リレーチームは、出場希望があつた選手で組んでいます。本人は、またこのチームで泳ぎたいと言います。

色々な地方に行って、印象に残っているエピソードはありますか？

開さん 京都駅に向かうバスが満員で、耐えられなくなつてしまつて、お母さんを残して一人で降りたことがあります。満員のバスは、空気が落ちて着かなくて苦手です。

母 満員の電車は平気ですけど、バスはダメみたいです。飛行機も電車も一人に乗れるので、その時も、「後で京都駅に集合ね」で済みました。

スケジュールについて教えてください。

開さん 練習は、月曜日から金曜日はアクアパレットまつやまに行っています。日曜日には大会があつたりするので、八幡浜には、ほとんどいません。大会がない日曜日は、のど自慢と競馬を見ている。森進一さんや早見優さんなどの懐かしの歌謡曲と走る馬を見るのが好きなんです。渋谷のNHKホールであるのど自慢のグランドチャンピオンには、本人が自分

で応募して、一緒に観に行きました。

練習や大会で忙しい中で、辞めたいことはありますか？

開さん 辞めたいことは、しよつちゅうありません。

母 思うようにタイムが出ない時や、遠征の移動が大変なので、そう思うことがあるようです。でも、大会に出たことで、新聞に名前が載つて、色々な方に声をかけていただいて、すごく励みになります。祝ってもらつたり、表彰してもらつたりすると嬉しいようです。

高校卒業後の進路は決まっていますか？

開さん 松山に進学して、とりあえず一人暮らしをしてみます。乗り物が好きなので、河原学園のエアライン観光科で、鉄道やエアラインの勉強をします。



第7回JSCA全国知的障がい者水泳競技大会(福井県11月26日開催)50m自由形・3位



えひめ大会 水泳知的障がい者チーム
(選手・介助員・県職員)

母 空港のハンドリングに障がい者雇用で入れるところがある
と専門学校に教えてもらったので、挑
戦させてみようと思いました。

開さん 卒業できたら、空港で荷物を
運ぶ仕事がしたいです。荷物
を運ぶための免許も取らないといけな
いかもありません。関西国際空港で働
きたいけど、もし松山空港だったら、
お父さんとお母さんを松山に呼んで、
一緒に高層マンションに住みたいです。

水泳は続けますか？

開さん 未定です。限界まで続けたい
とは思っています。

母 高校3年で区切りになるので、
「いつまで泳ぐの」と、よく
聞かれます。東京パラリンピックで色

んな施設ができるので、同じところで
泳げたら良いねと言っています。

今、水泳の一番の目標はなんですか？

開さん 1500mを泳ぐことです。

母 知的障がい者は、長距離のペー
ス配分が難しいと言われます
が、挑戦してみようと思っています。

**周囲に知ってほしいことはありま
すか？**

母 県の障がい者スポーツ大会は、
14歳以上で療育手帳を所持し
ていれば、記録に関係なく出場できる
ので、是非多くの方に出てほしいです。
水泳を通じて、親子ともに、友達が増
えて大会で会うのが楽しみです。

開さん 今まで助けてもらっていたの
で、これからは自分でやって
いきたいです。たまに助けてくれたら
嬉しいですよ。

**どんな時に助けてもらった嬉し
いのですか？**

開さん 例えば、前に「小さな親切作
文」で賞をもらって、式で大
勢の前で読む時とか、緊張している時
に声をかけてもらえると嬉しいです。

**第17回全国障がい者スポーツ大会 2017 笑顔つなぐ えひめ大会
笑顔で歓迎し、晴れやかにお見送り**

愛顔つなぐえひめ大会では、愛媛県
内外の選手が各会場で躍動されました。
精神障がい者バレーボールの会場となっ
た八幡浜市も、多くの方が応援に訪れ、
活気にあふれました。

開催にあたり、八幡浜市は九州から
愛媛入りする選手団がフェリーで到着
する「海の玄関口」であることから、
八幡浜市ボランティア協議会(以下、
ボラ協)・八幡浜市社会福祉協議会(以
下、市社協)より関係各所へ声をかけ、
フェリーの到着・出発に合わせて歓送
迎を行いました。

手作りのグッズを使って歓送迎を!

実施にあたり、ボラ協・市社協有志
によりグッズを作成しました。「よう
こそ愛媛・八幡浜へ」と書かれた横断
幕や、「がんばれ」「応援しよるけん」
等と書かれたミニ旗、応援の気持ちを
込めたプラカード等を作成しました。

お互いに笑顔とエールの交換

10月26日(木)、大分県、佐賀県、
長崎県、宮崎県の4県より、選手団が
来県しました。歓迎のために集まった
ボランティアは、延べ約150名。事

前に作成したグッズや港町らしいカラ
フルな大漁旗、バルーンスティック等
を使い、歓迎の気持ちと試合に臨む選
手へのエールを込めて、一人ひとりに
声をかけていきました。

10月31日(火)、試合を終えた選手
団が帰路につかれる際にも、見送りの
ためにボランティアが延べ約120名
集まりました。各選手団はフェリーに
乗船した後出発までの間、甲板に姿を
現し、集まったボランティアらと今大
会の健闘を称え合いました。フェリー
出航後も、お互いの姿が見えなくなる
まで手を振り合い、温かな交流がもた
れました。



通路わきに並び、笑顔で歓迎

八幡浜市地域支え合い協議体

第一層協議体で八幡浜市内の現状や課題を協議・整理

平成28年8月4日に設置された「八幡浜市地域支え合い協議体」は、今年度も会議を重ねてきました。平成29年11月7日(火)に開催した平成29年度第3回会議では、市内でモデル地区として設置された第二層協議体2ヶ所(千丈地区・喜須来地区)による実践内容の報告と、現在感じている課題の共有を行いました。そして、第一層協議体の委員を2つのグループに分け、これまで重ねてきた会議から見えてきた課題や考えられる対策等を協議しました。

差し迫った課題解決に向けて

第2グループは、第二層協議体である千丈地区で挙がってきた課題の対策を話し合いました。大きな課題は、山間部を中心とした買い物弱者と、交通手段の確保についてです。企業が検討している移動販売や路線バスの利用頻度等、情報やデータを可視化しながら、地域住民の支え合いで対応しなければならぬ事柄は何なのか、改めて考える必要性を共有しました。

「八幡浜に住んでいて良かった」と思うために必要な取り組みとは

第1グループは主に、居場所があることの大切さや、健康寿命をいかに延ばしていくかという広義の課題について議論しました。

「歳をとって何かあれば、病院や施設に入れば良い」と思っている方が多い一方、現実にはマンパワーの不足等により、難しくなっています。目指すべき目標は、「元気に自分の住みなれたところで生活していきたい」という地域住民の思いを、どう実現してい



会議に臨む第一層協議体委員

アクティブボランティア養成講座 地域を振り返り、 今求められる支え合いを考える



真剣に耳を傾けるサロンの皆さん

合会の会長でもある二宮春蔵氏の進行で、写真を見ながら地元・中当地区の歴史を振り返りました。

参加者から思い出が語られる中で、「昔は映画館や呉服屋等があり栄えた地区だったが、現在はほとんど閉店した」「祭りの担い手不足(神輿の担ぎ手等)」「隣近所の人と顔を合わす機会が少ない」「子どもの声を聞くことがない」等、様々な意見が出ました。

住み慣れた場所で生き 死んでいくことを考える

八幡浜市社会福祉協議会では、地域の支え合いの担い手育成のため「アクティブボランティア養成講座」を開講しており、平成29年度は地域に赴き、より身近な課題や自分たちに出来ることについて考える機会をもっています。日土地区のふれあい・いきいきサロン「野菊の里」では、2回の講座を開講しました。

自分の生まれ育った地域の 過去と今

平成29年10月2日(月)の第1回講座では、人口推移を確認した後、サロンのメンバーであり市老人クラブ連

平成29年11月1日(水)の第2回講座では、松山市の宅老所「あんき」代表 中矢暁美 氏を講師に招き、「地域(人)とつながるということ」と題して講演がありました。「今だけ・自分だけ・お金だけを考えて生きていくのは、あまりにも寂しい。生きていくだけで、ボランティア。人は繋がりの中で生きていく。生まれる場所は選べないが、死に方は選んでおくことが出来る」等とお話されました。

参加者からは、「地域のつながりの大切さが分かった」「自分にできることを頑張っていこうと思った」という声が聞こえました。

福祉教育の取り組み紹介

人との出会いからノーマライゼーションについて学ぶ

八幡浜市社会福祉協議会(以下、市社協)では、主に小中学校に赴き、地域や福祉について考える「福祉教育」に取り組んでいます。平成29年度は、12月7日(木)までに、小学校6校、中学校1校より依頼を受け、30回の授業を実施しました。

保内中学校では、総合的な学習の時間に「福祉・ボランティアコース」を選択した生徒17名に対し、5月25日(11月13日まで、全16回の授業を行いました。その取り組みの一部を紹介します。

歳をとるって、どういふこと?

1学期は、高齢者の生活を学ぶことをテーマに取り組みました。実際に地域の方を招きインタビューを行うことを目標に、まずはそれぞれがもっている高齢者のイメージや聞きたいことを個人ワークで考えました。それらを基に、我 重和さん、居村満智子さんを中学校に招きインタビューを行いました。我さん、居村さんには事前に過去の写真をご準備いただき、若い頃の様子や今の生活について、中学生が聞きたかったことに笑顔で答えてくださいました。



川之石地区 本町なかよし会 「受験生頑張れ! エイエイオー!」

認知症の理解を進める活動をしている『わたがし』の岡本詠子さんからは、脳や記憶の仕組み、現れる症状等について、パワーポイントや絵本を用いながら、分かりやすくお話いただきました。今自分たちにできること、認知症の方との接し方を学びました。

活動にお邪魔させていただく形で、4ヶ所のふれあい・いきいきサロンにも訪問しました。介護予防体操と一緒に行うことから始まり、七夕飾り作りやシャッフルゴルフ、サロン手作りのディスコゲーム等を通して、楽しく交流しました。サロンの皆さんも訪問を楽しみにしていただいております、美味しい手作りデザートをご準備いただき、たくさんお話することが出来ました。

障がいのある方の暮らしを知る

2学期からは、赤い羽根共同募金や障がい、福祉の仕事、ボランティアについて学んでいきました。

障がいの理解については、進行性筋ジストロフィー症で人工呼吸器を使っている伊方町で暮らしている大谷由紀さんにご協力いただきました。学校に招くことは難しかったため、事前に生徒が考えた質問内容を基に、市社協職員が自宅を訪問してインタビューの様子を録画・編集して授業に臨みました。生徒の質問にとっても丁寧に回答していただき、生徒はその言葉一つひとつに聞き入っていました。

また、一般社団法人愛媛県ネットワーク協会。パラスポーツコーディネーターの幸田裕司さんを講師に招き、全国障がい者スポーツ大会で八幡浜市が会場となった精神障がい者バレーボールや障がい者スポーツについても学びました。

福祉の仕事をする際には、松山市のNPO法人全国重度障害者相談支援協会障害者相談センター『イニシアティブ』より、社会福祉士の武田行雄さんにお越しいただきました。ご自身が福祉の仕事に就くまでの経緯や、仕事で

関わる障がいのある方々との関わり、ノーマライゼーションについてお話されました。

ボランティアについては、八幡浜市ボランティア協議会会長 木村謙児さんや点訳サークル竹の子会副会長 宇都宮ツヤ子さんに、自身がボランティアに携わった活動報告をいただきました。

16回の授業を通して様々な人と出会い、その人の歩みや取り組みを学びながら、自分たちの暮らす八幡浜市が『誰もが安心して暮らせる街』となる様に、考えることが出来ました。



大谷さんのインタビューに聞き入る生徒たち

「住民同士が助け合える地域を 目指して」

独居高齢者等見守りネットワーク事業 ネットワーク会議 全体会

平成29年11月8日(水) 13時半～15時まで、八幡浜市文化センターゆめみかん サブホールにて、八幡浜市内の見守り推進員、民生委員児童委員、地区社会福祉協議会、介護支援専門員を対象に研修会を開催し、約150名が参加しました。

講師として招いたのは、松山市の託老所「あんき」代表 中矢暁美さん。「住民同士が助け合える地域を目指して」と題し、あんきでの取組みや在宅ヘルパーとして勤務していた経験を踏まえ、高齢者を敬うこと、助け合うこと、居場所と仲間づくり、看取りについてお話されました。

あんきでは毎週、地元のボランティアアらが手作りした「おばさん料理」を提供しており、地域に住む高齢者の集いの場となっています。中矢さんは、「地域の人が集まり、話を聞く・聞いてもらうという繋がりの中で、一人じゃない、ここに住んで良かった、と思えることが大切。また、ちよつと困ったな、ということに対して、近所の人に知恵を借りることが、助け合いになる」と述べられ、ちよつとしたおせっかいの大切さを学びました。また、八幡浜市の地域性を取り上げ、「みかん取り

の帰りに納屋でちよつと集まってお茶をする『納屋カフェ』から始めてみてください」と助言をいただきました。後半には、あんきで実際に行われた看取りの様子が、映像と共に紹介されました。親の最期に直面する家族の葛藤をひしひしと感じ、改めて地域で最期を迎えることについて考える契機となりました。

参加した見守り推進員からは「地域で不安や胸の内を遠慮なく吐き出せる場があるのは良いなと思いました」「普段考える事のない『死に方』について考えさせられました」等の声が聞かれました。



講演する中矢暁美さん

エンディングエキスパート事務局 「相続の困りごと、お任せください」

平成29年11月19日(日) 9時から12時、みなと交流館にて、エンディングエキスパート事務局主催の終活セミナーが開催されました。

エンディングエキスパート事務局は、弁護士、司法書士、葬儀プランナー、宅地建物取引士、税理士等の専門家が、相続等の困りごとを一カ所で解決するための窓口として誕生しました。

終活セミナーでは、講師にらくさぶろう氏が招かれ、ご自身の体験を基にした軽快なトークで「終活」についてイメージをふくらませました。セミナー後には、無料相談会が開催され、来場者はそれぞれの困りごとや心配ごとを相談されました。

私たちは、大切な人を亡くされて一番悲しみの中にある方が多くの窓口で手続きを行わなければならない現状を解決すべく結成いたしました。地域に貢献できるように活動して参りますので応援よろしくお願いたします。

エンディングエキスパート事務局
坂本将来 司法書士



盛り上がりを見せる らくさぶろう氏の講演

お問い合わせ

エンディングエキスパート事務局

八幡浜市向灘 2897-3 TEL / 090-9454-7336

営業時間 / 9:00 ~ 17:00 定休日 / 土・日・祝

生活のこと

家計のこと

仕事のこと

本当に

困っていませんか？

例えば..

- ころの病やひきこもりで悩んでいる。
- 家計のやりくりに困っている。
- 借金が多くて悩んでいる。
- 仕事が長続きしない、決まらない。
- 食べるものや住む家がない。
- 相談できる人がいない。

生活リズムを一緒に考えましょう

お仕事を一緒にさがしましょう

お金の管理を一緒にしましょう

お電話・訪問・来所等、ご希望の方法で相談に応じます。

- 1 じっくりとお話しをお聞きします。
- 2 問題や課題を一緒に整理します。
- 3 あなたの目標を作ります。
- 4 一緒にプランを考えます。
- 5 あなたのプランを全力でサポートします。
- 6 目標達成にむけて…Go!



お聞きしたいこと

信頼と安心をお約束

まずはお電話またはメールにてご連絡ください。

0894-23-2940

E-mail:info@yawatahamashi-syakyo.jp

八幡浜市社会福祉協議会 地域福祉課

平成29年度 八幡浜市社会福祉大会

と き / 平成30年1月27日(土)

場 所 / 八幡浜市文化会館ゆめみかん 大ホール

八幡浜市の社会福祉の発展にご尽力され多大な功績を残された方々を、感謝をこめて表彰します。そして、誰もが安心して暮らせる地域づくりの実現に向けた活動に、一人ひとりが考え参画する機会と、地域福祉のさらなる充実を目指します。

時 間	内 容
12:30	開場・受付
13:30	開会 式典 表彰・感謝状贈呈 他
14:15	記念講演
16:00	閉会

記念講演

講師 落語家 ^{やなぎ}柳家^や花^かん^{しや}謝氏

演題 「一日一席 一笑懸命に落語と生きる」

お気軽に
お越し下さい
入場無料



日本の伝統芸能である落語。その中の登場人物は生き生きとして、自分の人生を心から楽しんでいきます。そんなワクワクする気持ちを、皆様に少しでも伝えられればいいなと思います。さあ、みんなで笑いましょう！

略 歴

1981年八幡浜市八代で生まれる。八幡浜高校を卒業後、愛媛大学に入学し、落語研究会に籍をおく。在学中、柳家花禄の話芸にふれ、落語家としての将来を決断。2003年に愛媛大学を中退し、柳家花禄師匠に入門。同年前座となり「柳家禄太」を名乗る。2007年には二ツ目に昇進。「柳家花ん謝」と改名。現在、東京を中心に年間300席の高座をつとめる、注目の若手落語家。

2016年 第15回さがみはら若手落語家選手権 大賞

2017年 北とびあ若手落語家競演会 大賞

訂正の お知らせ

社協だより70号(平成29年10月1日発行)に掲載いたしました内容に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

- 6ページ最上段左から6行目

【 訪問介護ステーション Setsuko ▶ 訪問看護ステーション Setsuko 】

- 7ページ最下段左から4行目 【 水野 覚 ▶ 水本 覚 】

